

証券コード：4406（東証スタンダード）

2025年3月期上期

# 決算説明会資料



2024年11月20日

代表取締役 社長執行役員  
三浦 芳樹





- 2025年3月期上期 決算概要
- 2025年3月期通期 業績予想
- 中期経営計画の進捗状況
- サステナビリティの取組み
- 参考資料



Be the best **SPICE!**



■ 2025年3月期の上期業績は**増収増益**

売上高

161 億円

前年同期比較 

前年実績 156 億円

差額 +4.4 億円

(+2.9%)

営業利益

(△は損失)

2.8 億円

前年同期比較 

前年実績 △1.2 億円

差額 +4.1 億円

( - %)

中間純利益

(△は損失)

2.9 億円

前年同期比較 

前年実績 △1.1 億円

差額 +4.0 億円

( - %)

## オレオケミカル

### 環境

- | インバウンド消費による洗浄剤需要の増加
- | 原料相場は緩やかな上昇傾向

### 概況

- | ステアリン酸事業撤退（2023年6月）などの影響で数量、売上高ともに前年を下回ったものの、界面活性剤および高級アルコールの需要は徐々に回復

## 可塑剤

### 環境

- | 海外市況の下落に伴い、国内に安価な海外品が流入
- | 主用途である建材の国内需要は低調に推移

### 概況

- | 海外品との競争激化により数量は前年を下回る
- | 原料価格高騰を受けた価格改定を進めた結果、売上高は前年を上回る

## 合成樹脂原料

### 環境

- | 中国の内需低迷による安価な中国品の輸出増からアジア市況が下落

### 概況

- | 価格競争力の低下から輸出は低迷
- | 国内需要が堅調に推移したことに加え、電子材料向け新規採用などが寄与し、数量、売上高ともに前年を上回る

## 機能性化学品

### 環境

- | 欧州でのポリオレフィン樹脂需要が好調に推移

### 概況

- | アジア向け医薬品原料の販売が増加
- | 主要輸出先である欧州の需要回復により、ポリオレフィン樹脂向け結晶核剤の販売が伸長し、数量、売上高ともに前年を上回る

- 販売数量は前年を下回るも、原料高騰を受けた価格見直しにより売上高は伸長
- 欧州を中心とした結晶核剤の需要回復や、収益を圧迫していた製品の統廃合を進めたことにより収益は改善

（単位：百万円）

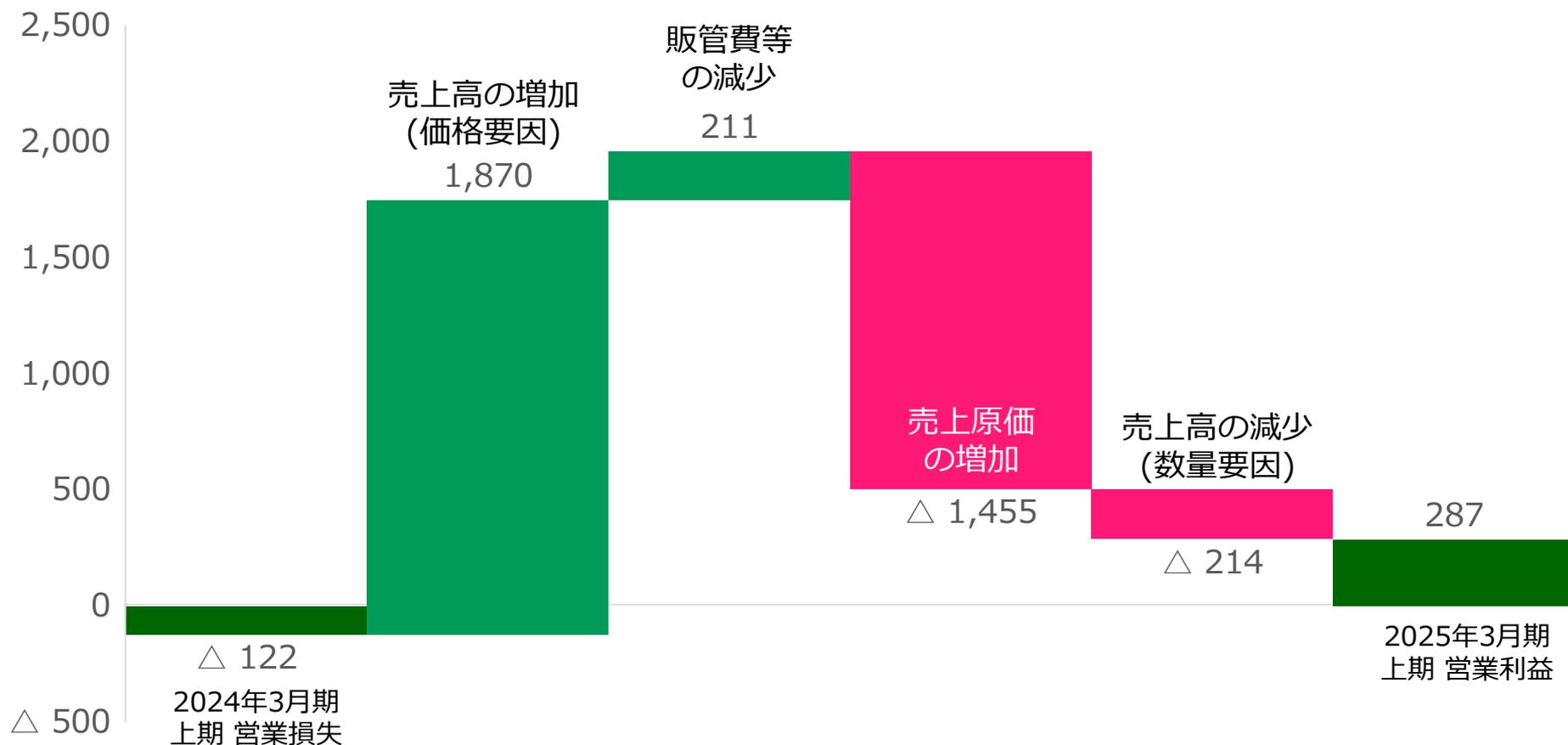
	2024年3月期 上期	2025年3月期 上期	前年度比較	
			増減額	増減率
売上高	15,660	<b>16,110</b>	+449	+2.9%
営業利益 (△は損失)	△122	<b>287</b>	+410	—
経常利益	95	<b>375</b>	+279	+291.1%
親会社株主に帰属する 中間純利益 (△は損失)	△114	<b>292</b>	+407	—
1株当たり 中間純利益 (△は損失)	△3.08円	<b>7.84円</b>	+10.92円	—
国産ナフサ（¥/KL）※ (7～9月平均)	63,600円	<b>76,900円</b>	+13,300円	+20.9%

※出展 財務省貿易統計

# 営業損益の増減要因（対前年同期）

- 製品の統廃合などにより売上数量が減少したものの、製品の適正価格維持に努めたことに加え、販管費の削減が営業利益に寄与

(単位：百万円)





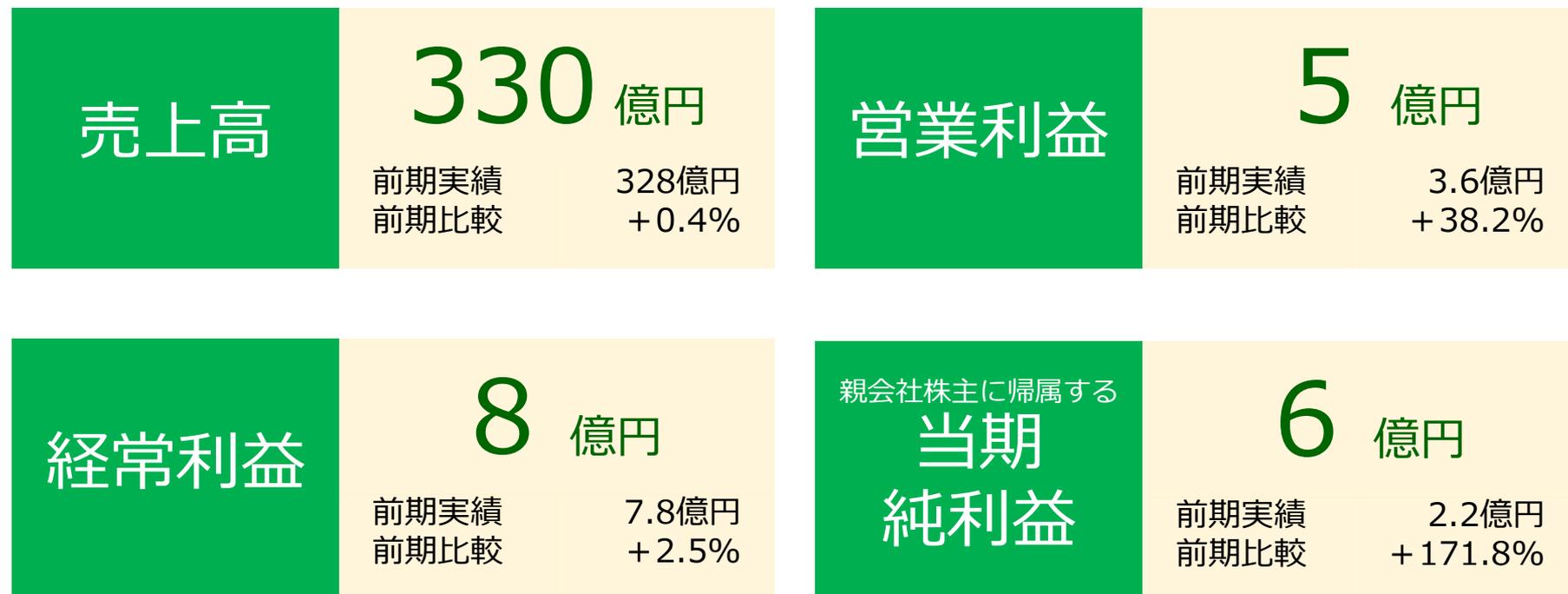
- 2025年3月期上期 決算概要
- 2025年3月期通期 業績予想
- 中期経営計画の進捗状況
- サステナビリティの取組み
- 参考資料



Be the best **SPICE!**



## ■ 通期業績予想は以下のとおり



## 環境予測

- 不安定な世界情勢から、エネルギー価格の変動が続くと予想される
- 環境意識の高まりによる植物油（パーム油）需要の増大に加え、異常気象の増加が生産高に影響するとの懸念を背景に、油脂原料の価格高騰が想定される
- 内需が低迷する中国から安価な製品が輸出されることにより海外市況が下落。アジア向け輸出の価格競争はさらに厳しくなる見込み

## 事業戦略

- 製品構成の見直しを継続するとともに、ロス低減のための安定・安全生産体制の強化など、収益力をより向上させるための取組みに注力する

### オレオケミカル

- | 適正価格の維持および新規ユーザーの開拓により収益改善に努める

### 可塑剤

- | 安定的な原料調達・生産・物流を確保し、信頼性の高い供給体制を堅持

### 合成樹脂原料

- | 電子材料向け高純度品の用途開拓を進め、高収益製品の販売伸長をねらう

### 機能性化学品

- | 樹脂添加剤の好調な需要に応えるため、増産に向けた対応を進める

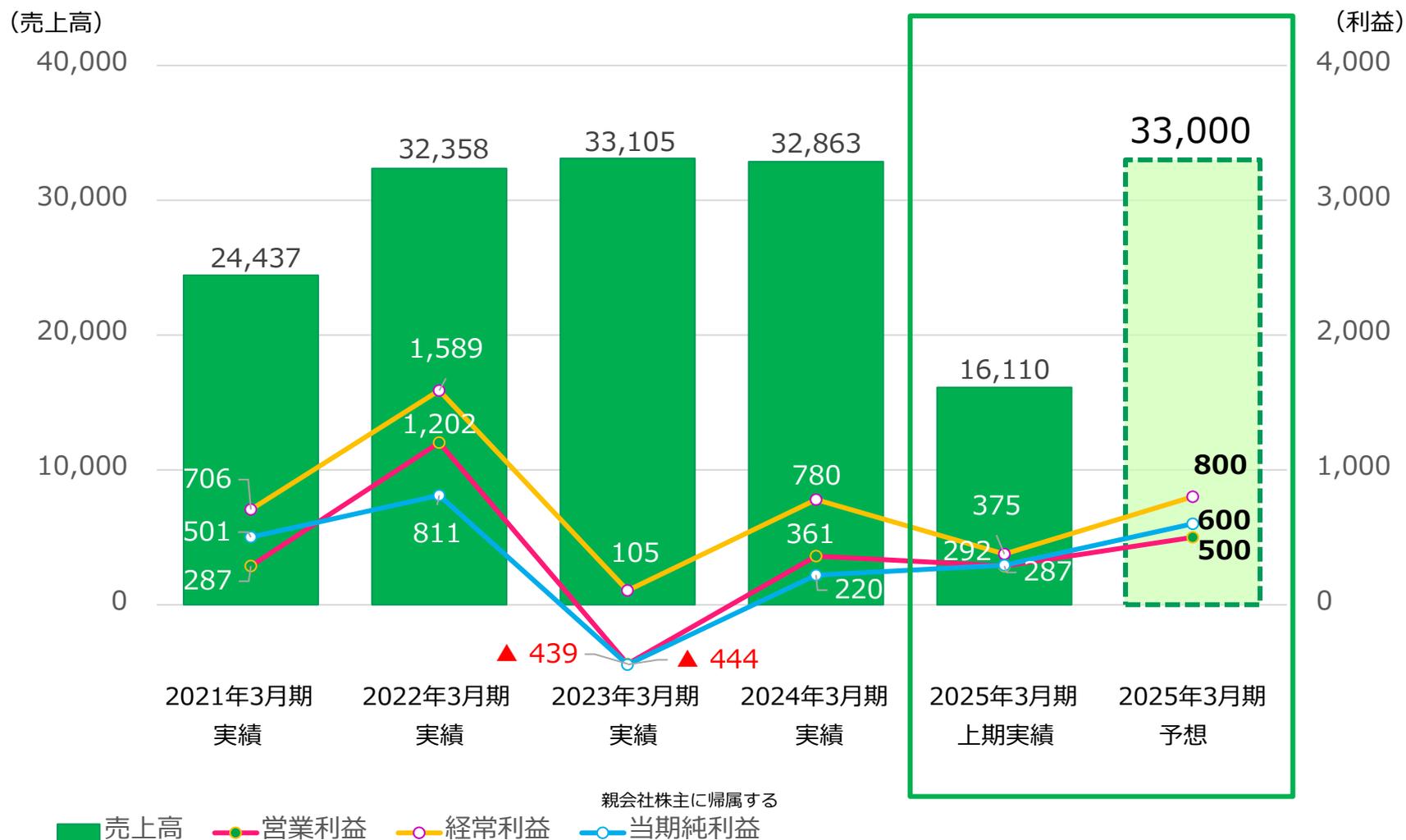
- 期末配当は1株当たり3円、配当性向は18.6%を予定

（単位：百万円）

	2024年3月期 実績	2025年3月期 上期 実績	2025年3月期 予想	前期比較		上期実績 進捗率
				増減額	増減率	
売上高	32,863	16,110	33,000	+136	+0.4%	48.8%
営業利益	361	287	500	+138	+38.2%	57.6%
経常利益	780	375	800	+19	+2.5%	46.9%
親会社株主に帰属する 当期（中間）純利益	220	292	600	+379	+171.8%	48.7%
期末配当金（円）	0円	-	3円	+3円	-	-
配当性向（%）	-	-	18.6%	-	-	-

## ■ 過去4年間の推移および2025年3月期の業績予想

(単位：百万円)





- 2025年3月期上期 決算概要
- 2025年3月期通期 業績予想
- 中期経営計画の進捗状況
- サステナビリティの取組み
- 参考資料



Be the best **SPICE!**



## VISION 2030



## Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二の個性をもった素材のスパイスで、  
世界をより、健やかで豊かなものに、  
毎日をもっと、心ときめくものに。

## 中期経営 計画 2021～ 2025

### ◆ 基本コンセプト

- | 環境・社会・人（命）に関わる課題に果敢にチャレンジし、  
価値創造企業を目指す。
- | 情報・通信、モビリティ、ライフサイエンス、環境ソリューション  
の4領域に経営資源を集中し、成長戦略を実現する。

### ◆ 経営目標（2025年度・連結） ※2024年6月修正

| 売上高：340億円 | 営業利益：8億円 | ROE：6.0%

- VISION2030の実現に向け、事業ポートフォリオの最適化を進めるとともに、持続的成長のベースとなる「モノづくり」の力を躍進させる

## ポートフォリオ 組換えの加速

- ｜ 製品ラインナップ見直しに対応しうる、フレキシブルな生産・販売体制を構築する。
- ｜ 新規事業として環境貢献製品のビジネスを拡大する。
- ｜ グループ海外拠点を起点に海外ビジネスを拡大する。

## モノづくり力 の向上

- ｜ 調達ソースを多様化し、サプライチェーンを強化する。
- ｜ 生産・設備情報のデジタル化を進め、生産性と品質の向上を両立させる。
- ｜ 品質管理を高度化し、高純度品の安定生産を実現する。

## ポートフォリオ組換えの加速

### 戦略

- 製品ラインナップ見直しに対応しうる、フレキシブルな生産・販売体制を構築する。
- 新規事業として環境貢献製品のビジネスを拡大する。
- グループ海外拠点を起点に海外ビジネスを拡大する。

### 取組みと成果

- オレオケミカル・可塑剤の事業再構築（生産拠点・品目の最適化）**
  - 海外の生産機能拡充に向け、現地企業と提携交渉を推進。
  - 成長市場向けは製品ラインナップを拡充し顧客提案体制を強化する一方、ノンコア製品は販売を順次中止。事業の絞込みを進める。
- 環境負荷低減製品／バイオ由来製品の開発と用途開拓**
  - ポリオレフィン向け結晶化促進剤：RiKACRYSTA<sup>®</sup>
  - 電気不要のバイオマス蓄冷材：RiKAeCOOL<sup>™</sup>
  - バイオマス可塑剤：グリーンサイザー<sup>®</sup>
  - バイオマス由来のエモリエント剤：RiKANATURA<sup>®</sup>
  - バイオマス由来のジオール：リカビノール<sup>®</sup> ND
- 樹脂原料・機能性化学品の海外販売拡大**
  - 英国、韓国の子会社を軸に販売網を開拓。
  - 樹脂添加剤は欧州での販売好調を受け、増産に向けた対応中。

## モノづくり力の向上

### 戦略

### 取組みと成果

調達ソースを多様化し、サプライチェーンを強化する。

生産・設備情報のデジタル化を進め、生産性と品質の向上を両立させる。

品質管理を高度化し、高純度品の安定生産を実現する。

#### 調達先の多様化・分散化によるリスク低減

・製品毎の調達リスクを可視化し、高リスク製品については新規サプライヤー評価（ラボ評価～実機検証）を実施。

#### 生産機能のデジタル化推進

・設備稼働データの解析により、異常の早期発見と品質安定化へ。全社展開に向け対象設備を拡大中。  
・生產業務の暗黙知を電子マニュアルにより形式知化し、品質安定化と同時に技能伝承を推進。

#### 品質管理・生産管理・設備保全の体制再構築

・研究開発－品質管理の連携強化により品質力を底上げ。市場要求に応える高純度品の安定供給に繋げていく。  
・生産計画の精緻化と在庫適正化のため、新たな生産管理システムの構築に着手。  
・設備トラブルの過去事例を解析し、予知保全の仕組み化を目指す。

## ポートフォリオ 組換えの加速

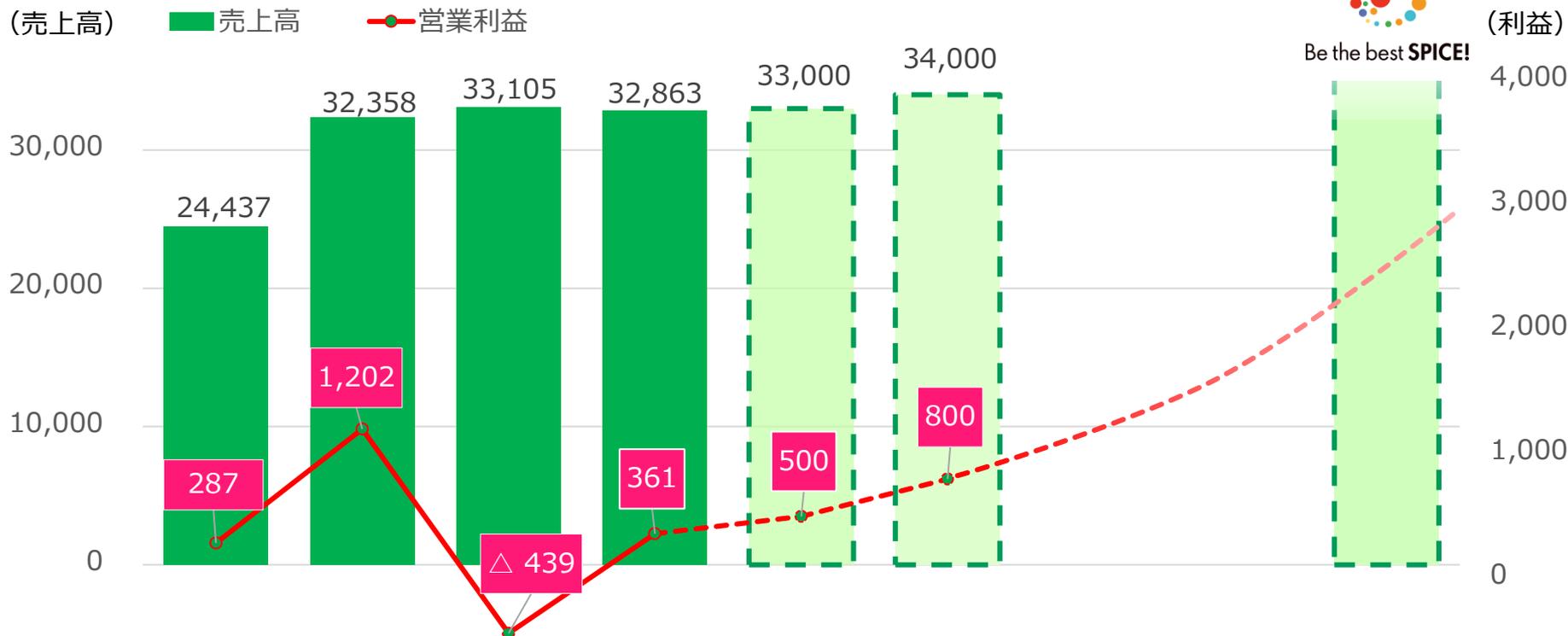
- 基盤となる可塑剤事業の調達・生産・物流の各機能を強化。安定供給体制を確保し、販売数量・売上高を着実に積み上げる。
- ポリイミド／エポキシ樹脂原料「リカシッド TMEG」シリーズを電子材料・EV向けに価値訴求。製造・分析工程を確立し高純度品の安定生産を可能にする。
- オレオ技術と原料調達の優位性を活かしたバイオマス由来製品群を育成。研究-営業の連携により用途開発を加速する。

## モノづくり力の 向上

- 原料調達ソースの増加に向け、候補品の実機検証を急ぐ。
- 安定的な物流体制構築のため、タンク・倉庫拠点の再編や他社との共同物流により効率化・強靱化を図る。
- 設備稼働データの解析による異常の早期発見・不適合防止を全拠点に広げる。将来的に高度な自動制御による生産革新を目指す。
- 新生産管理システムの活用により、生産計画・人員配置の最適化と適正在庫の維持を可能にする。

## ■ 修正中期経営計画の着実な遂行により、利益構造の改革を目指す

(単位：百万円)



	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度予想	2025年度修正目標
ROE	3.5%	5.2%	△ 2.8%	1.3%	3.6%	<b>6.0%</b>

2026年度からの次期中期経営計画は、2025年度中に改めて発表

中期経営計画 (2021~2025年度)



- 2025年3月期上期 決算概要
- 2025年3月期通期 業績予想
- 中期経営計画の進捗状況
- サステナビリティの取組み
- 参考資料



Be the best **SPICE!**



## 経営理念

私たち新日本理化グループは、もの創りを通して広く社会の発展に貢献します。

## CSR方針

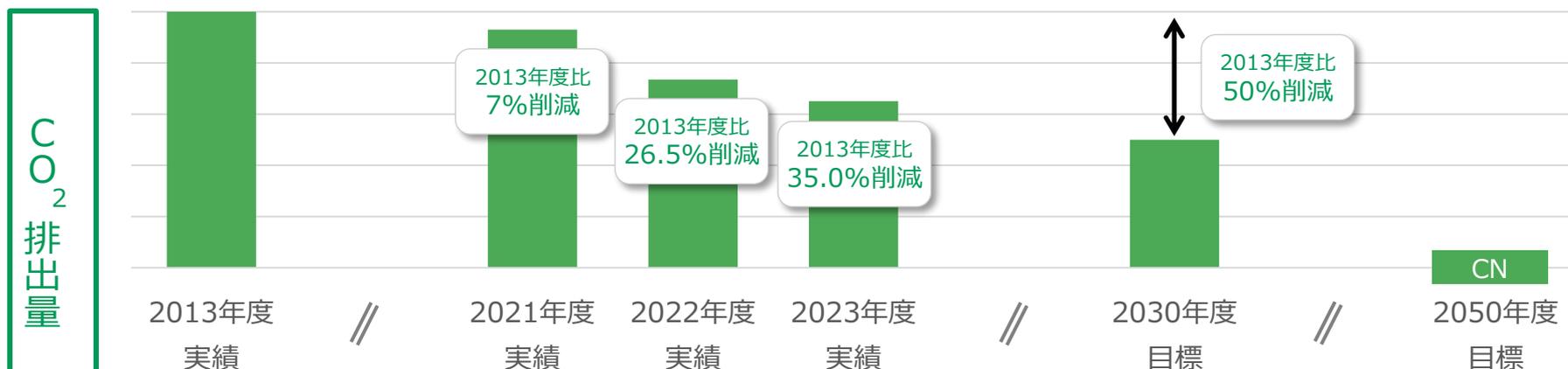
私たちは、事業を通して社会価値を創造することが経営理念の実現そのものであると考え、持続可能な社会の実現と新日本理化グループの持続的な成長を目指します。

重点課題	主な取組み
環境課題へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"><li>カーボンニュートラル達成に向けた取組み</li><li>環境価値創造に向けた取組み</li></ul>
人的資本の拡充	<ul style="list-style-type: none"><li>ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進</li><li>人材・組織のパフォーマンス向上</li></ul>

## ■ カーボンニュートラル（CN）達成に向けた取組み

2030年度までにCO<sub>2</sub>排出量を2013年度比50%削減し、2050年度にはCN達成を目指す。まずは2030年度の目標達成に向けて、エネルギー使用の最適化と再生可能エネルギーの調達を進めていく。

課題		これまでの取組みと成果
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	エネルギー使用の最適化	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備ごとのエネルギー使用量の見える化および傾向分析</li> <li>分析結果に基づき機器の制御方法を変更、省エネ効果を確認</li> </ul>
	再生可能エネルギーの調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>電力：非化石証書付電力を調達（電気使用量の約48%）</li> <li>都市ガス：カーボンオフセットの都市ガスを調達（都市ガス使用量の約39%）</li> </ul>



対象：新日本理化株式会社および日新理化株式会社（Scope1、Scope2）

## ■ 環境価値創造に向けた取組み：環境貢献製品の拡充と用途開拓

機能による  
環境負荷  
低減

### ■ RiKACRYSTA®

プラスチック成形におけるサイクルタイムを短縮  
エネルギー使用量を削減する結晶化促進剤

### ■ RiKAeCOOL™

電気を使わずに約40度を保持する優れた熱コントロール性能が特徴の蓄冷剤  
引火点が高いため非危険物として扱える安全素材

技術による  
環境負荷  
低減

### ■ RiKANATURA®

化粧品原料向けに新規開発した植物由来  
のエモリエント剤  
ヘアオイルへの配合により、容器変形の  
低減やスタイリング維持力UPなどが期  
待できる

### ■ リカビノール® ND

バイオマス原料100%使用のノナン  
ジオール  
ポリウレタンやポリエステルバイオマ  
ス化に貢献する新たな素材

### ■ エヌジェルブ®

植物由来オイルの課題であった低温流  
動性を克服した、鉱物由来オイルの代  
替となる植物由来エステル油

### ■ グリーンサイザー®

石化由来の汎用可塑剤と同等以上の性  
能を発揮するバイオマス可塑剤

- VISION2030「Be the best SPICE!」の実現に向け、多種多様な人材が自らの能力に磨きをかけながら、強みを発揮して働ける組織を目指す

課題		これまでの取組みと成果
ダイバーシティ & インクルージョンの推進	多様な人材の採用・登用	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員に占めるキャリア採用者の割合：41.4%（2023年度末）</li> <li>管理職に占める女性の割合：7.0%（同）</li> <li>取締役占める女性の割合：11.1%（2024年9月末）</li> </ul>
	多様な働き方の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>柔軟な勤務形態：フレックスタイム制度、テレワーク制度</li> <li>男性の育児休業取得率：70.0%（2023年度）</li> <li>シニア社員の活躍推進：定年後再雇用制度の見直し</li> </ul>
人材・組織のパフォーマンス向上	組織開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>マネージャー層へのコーチング研修の実施</li> <li>上司・部下間の定期的な1on1（課題の共有・キャリア支援）</li> <li>人事メンバー・従業員間の1on1（人事課題の把握）</li> </ul>
	人材開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価制度・等級制度の改定 …チャレンジの促進、各等級の役割明確化、年功要素の削減</li> <li>評価者へのポジティブフィードバック研修の実施</li> <li>意欲ある社員が自由にメニューを選択できる研修の導入</li> </ul>



# Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二のスパイスで、  
世界を健やかで豊かなものに、毎日を心ときめくものにしたい。

もの創りの会社、新日本理化は、  
これからも広く社会の発展に貢献してまいります。

本日は、ご清聴いただきありがとうございました。

【お問い合わせ先】

新日本理化株式会社 経営企画部

<https://www.nj-chem.co.jp/>





- 2025年3月期上期 決算概要
- 2025年3月期通期 業績予想
- 中期経営計画の進捗状況
- サステナビリティの取組み
- 参考資料

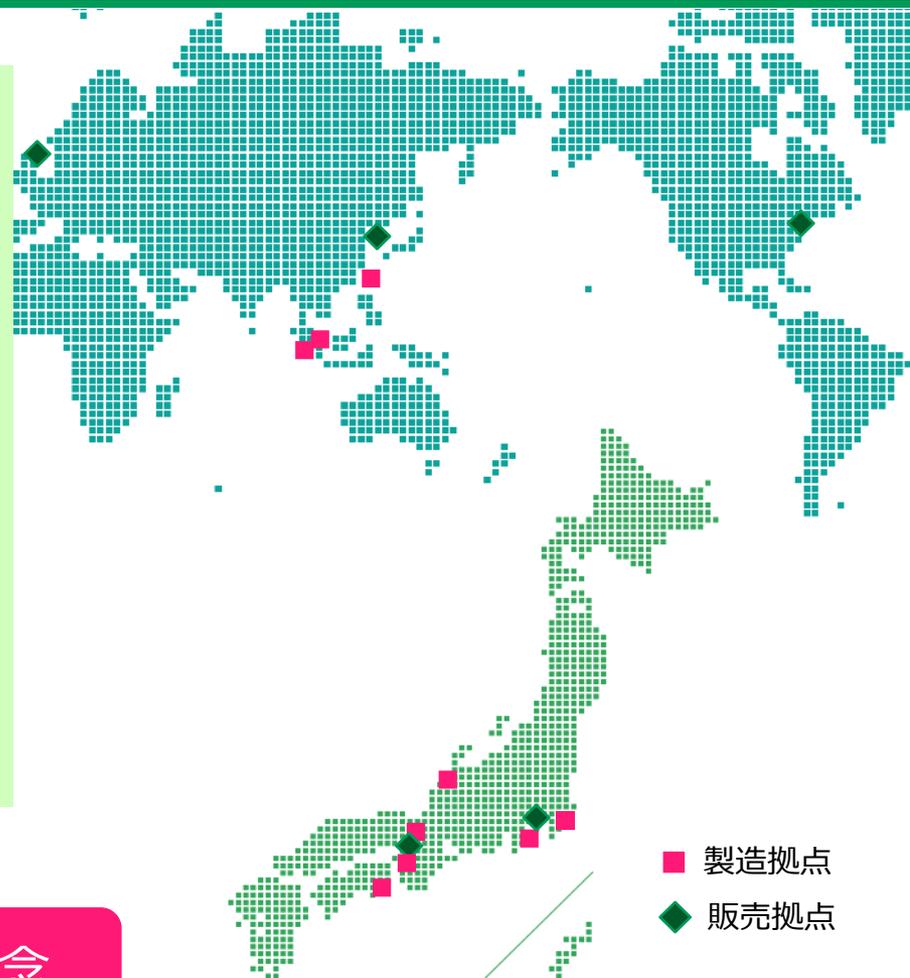


Be the best **SPICE!**



## 新日本理化株式会社

- 創業：1919年（大正8年）11月10日
- 資本金：5,660百万円
- 従業員数：404名（連結）[2024年9月末]
- 事業内容：化学製品の製造・販売
- 営業所：大阪（本社）、東京
- 工場：京都、徳島、川崎、堺
- 研究所：京都
- 関係会社：国内4社、海外6社

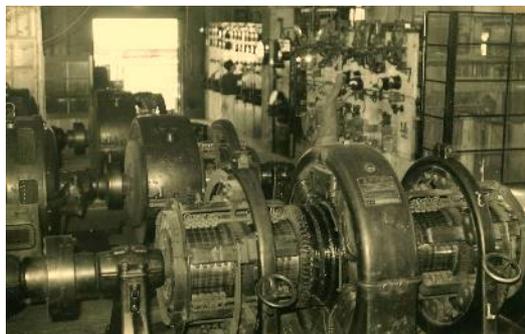


## 経営理念

私たち新日本理化グループは、もの創りを通して広く社会の発展に貢献します。

1920年

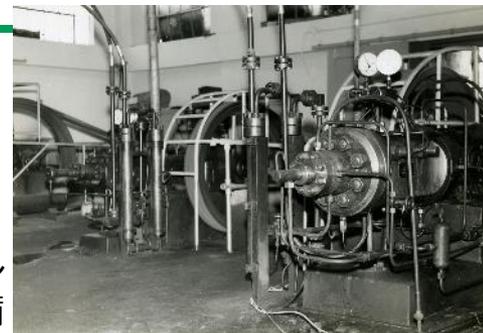
水の電気分解により製造した酸素ガスの販売を開始



創業時の直流発電機

1951年

高級アルコール製造設備



ヤシ油を水素化して高級アルコールを製造、可塑剤事業スタート

1961年

水素化技術を活用して無水コハク酸を製造（日本初）

1922年

魚油に水素を添加して硬化油を製造、今日につづく水素化技術の始まり



硬化油工場

1982年

ポリオレフィンの透明性を改良する結晶核剤を開発、機能性化学品事業に進出



ポリオレフィン製容器

2001年

HDDのモーター向けの潤滑油を開発



内臓HDD

2022年

結晶化速度を大幅に改善した結晶核剤 RiKACRYSTA® を発売



RiKACRYSTA

2019年  
創業100周年

1993年

植物系（ヤシ油・パーム油）の不飽和アルコールを開発



パーム油

2021年

バイオマス可塑剤 グリーンサイザー® を開発、バイオマスマークを取得



バイオマス  
No.210315

バイオマスマーク

2023年

バイオマス由来化粧品原料 RiKANATURA® を開発

## 原料

天然油脂  
(ヤシ油、パーム油)

## 製品分野 (主な製品)

オレオケミカル

アルコール  
界面活性剤

## 主な使用分野

トイレットリー



化粧品



石油由来原料  
(ナフサから  
得られる基礎化学品)

可塑剤

耐熱性可塑剤  
耐放射線可塑剤

自動車



住宅設備



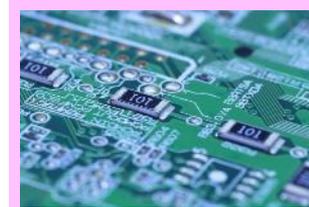
合成樹脂原料

ポリエステル原料  
エポキシ樹脂硬化剤

医療器具



電子製品



機能性化学品

結晶核剤 潤滑油  
ポリイミド

会社名	所在地	議決権所有割合	事業内容
日新理化株式会社	千葉県 市原市	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社製品である可塑剤、界面活性剤の製造</li> </ul>
アルベス株式会社	大阪府 大阪市	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務用洗剤等の製造および販売</li> <li>当社製品を含む化学製品等の仕入販売</li> </ul>
日東化成工業株式会社	神奈川県 横浜市	新日本理化 55.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属石鹼、塩化ビニル用安定剤等の製造および販売</li> </ul>
NJC Korea Co., Ltd.	大韓民国	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社製品の韓国向け販売</li> </ul>

会社名	所在地	議決権所有割合	事業内容
Edenor Oleochemicals Rika(M)Sdn. Bhd.	マレーシア	新日本理化 25.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>天然脂肪族アルコールの製造および販売</li> </ul>
台湾新日化股份有限公司	台湾	新日本理化 43.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種界面活性剤の製造および販売</li> </ul>
NJC Europe Ltd.	イギリス	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社製品を含む化学製品の販売</li> </ul>
Nice Rika Biotechnologies Sdn. Bhd.	マレーシア	新日本理化 30.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>界面活性剤の製造</li> </ul>

- 売掛金（流動資産）および買掛金（流動負債）の残高が減少。
- 投資有価証券の時価上昇により評価差額金（純資産）が増加。

（単位：百万円）

	2024年3月期	2025年3月期 上期	増減額
総 資 産	40,114	39,171	△ 942
流 動 資 産	19,845	18,193	△ 1,652
固 定 資 産	20,268	20,978	+ 709
負 債	21,637	19,713	△ 1,924
流 動 負 債	12,837	10,469	△ 2,367
固 定 負 債	8,800	9,243	+ 443
純 資 産	18,476	19,458	+ 981
負 債 純 資 産 合 計	40,114	39,171	△ 942
自 己 資 本 比 率	43.1%	46.7%	-

- 現金及び現金同等物の残高は前期末に比べ3億6千3百万円減少の33億3千1百万円。
- 営業活動によるCFのマイナスの主な要因は、棚卸資産の増加。
- 財務活動によるCFのプラスの主な要因は、借入金の実行。

(単位：百万円)

	2024年3月期 上期	2025年3月期 上期
営業活動によるCF	574	△ 613
投資活動によるCF	104	△ 439
財務活動によるCF	△ 269	691
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	410	△ 363
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,181	3,331

- 持分法による投資利益の計上などにより、営業外損益は+ 8千7百万円。

(単位：百万円)

営業利益	287
営業外損益	87
経常利益	375
特別損益	1
法人税等	65
非支配株主に帰属する 中間純利益	19
親会社株主に帰属する 中間純利益	292

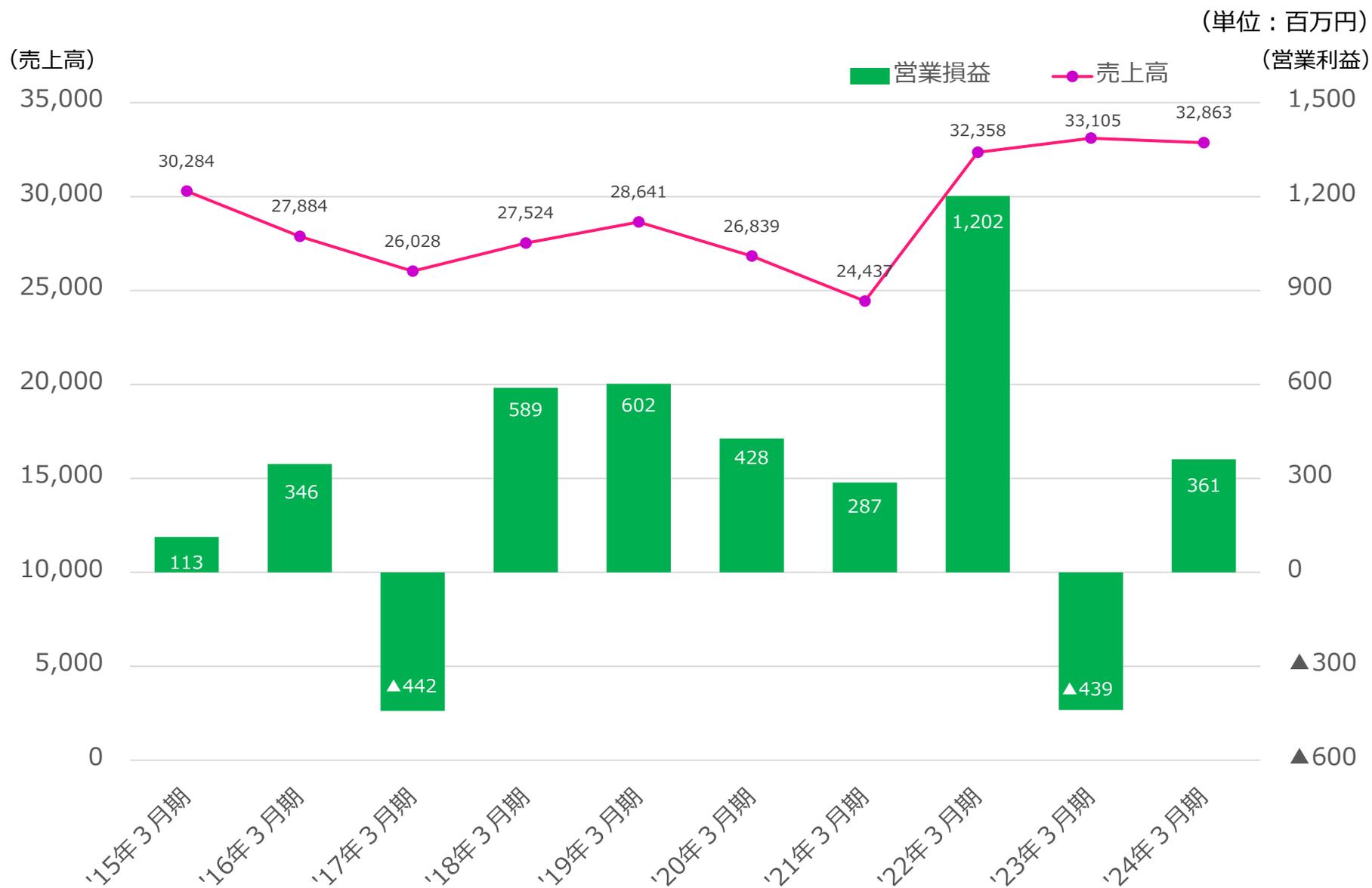
(単位：百万円)

営業外損益	2024年3月期 上期	2025年3月期 上期	増減額
受取配当金	97	89	△ 7
支払利息	△ 24	△ 22	1
持分法投資利益	118	106	△ 11
その他	26	△ 86	△ 113
合計	218	87	△ 131

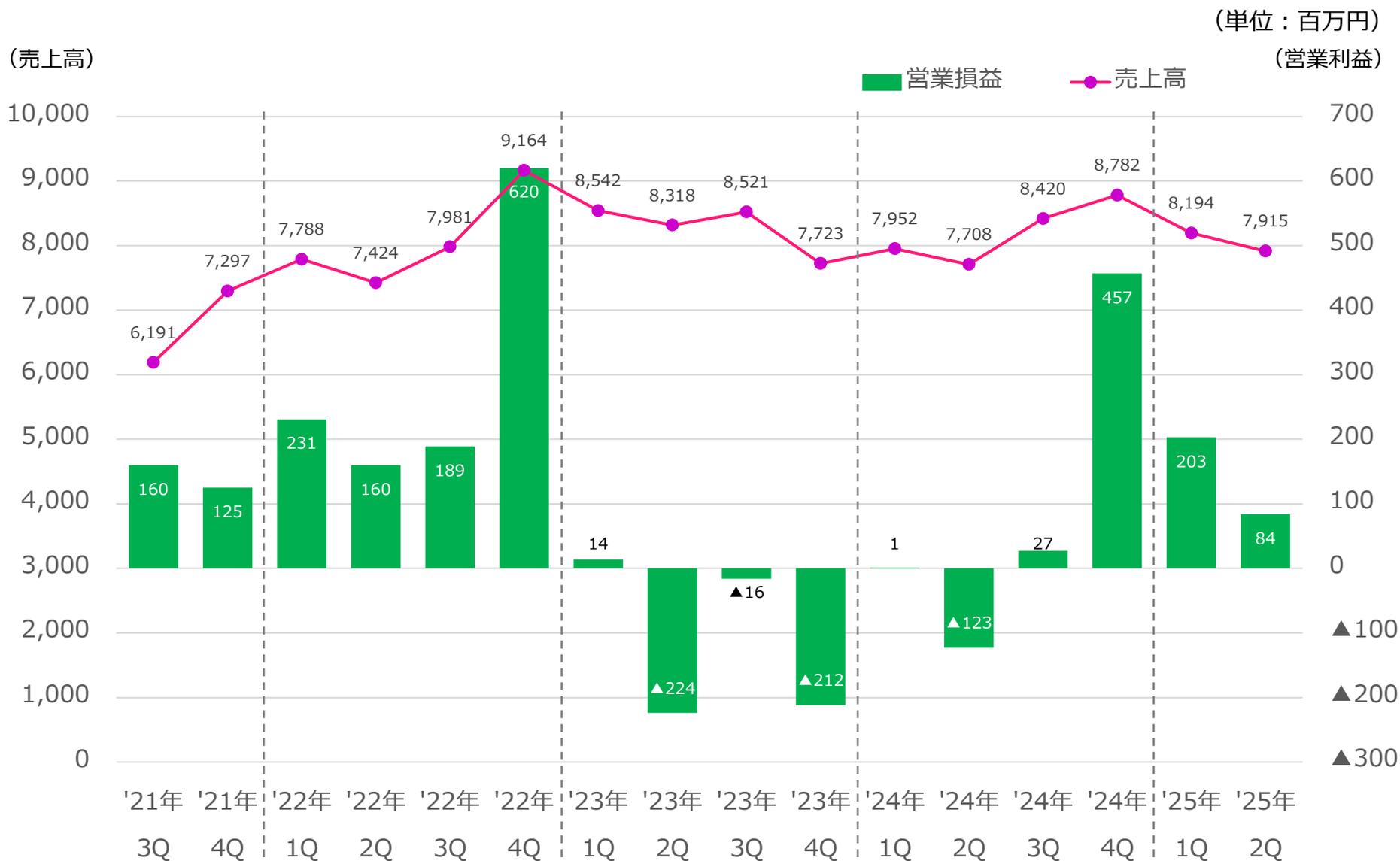
(単位：百万円)

特別損益	2024年3月期 上期	2025年3月期 上期	増減額
事業再編損	△ 123	-	123
投資有価証券売却益	64	1	△ 63
減損損失	△ 8	-	8
合計	△ 67	1	68

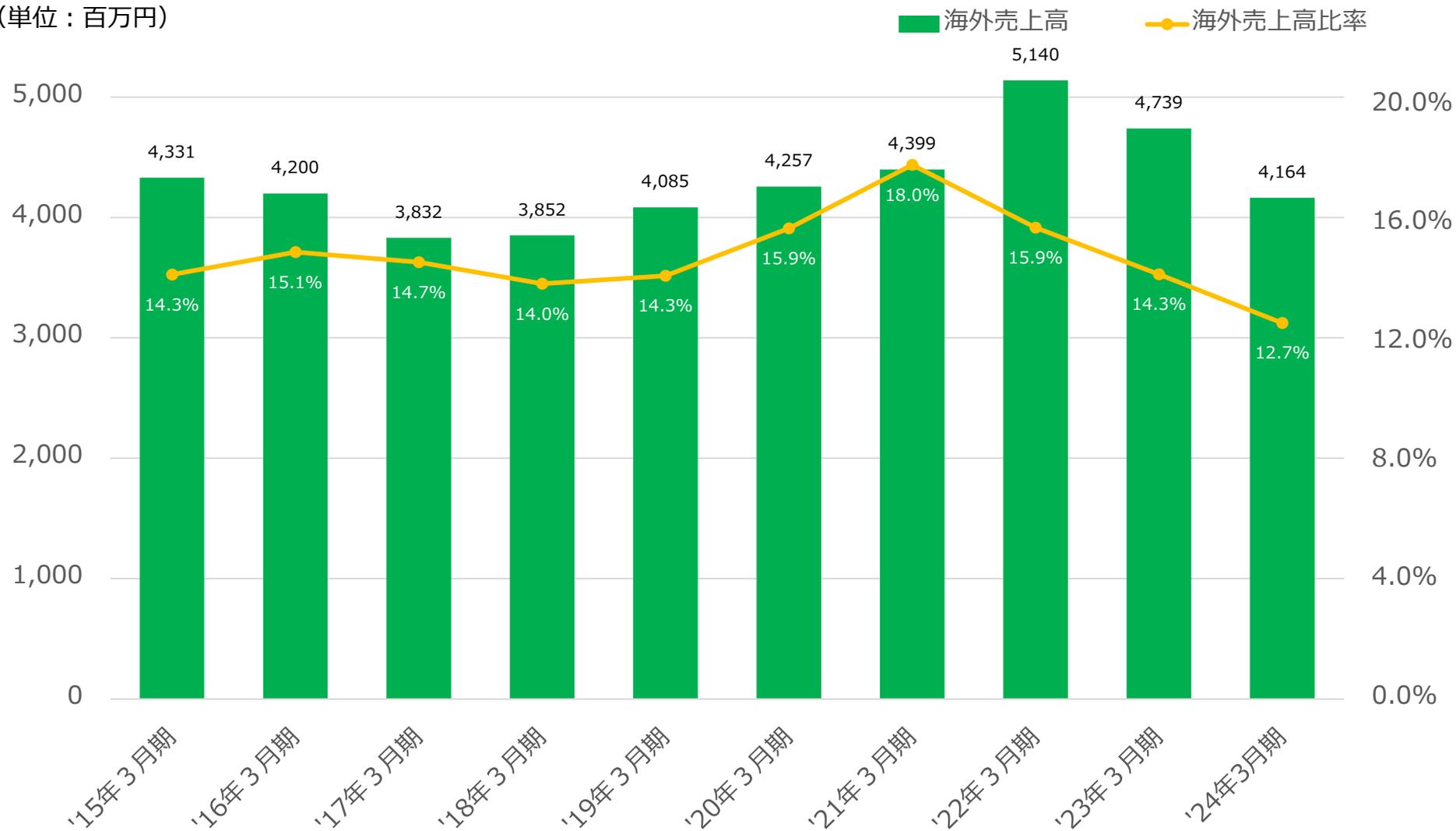
# 連結業績の推移



# 連結業績の推移（四半期）

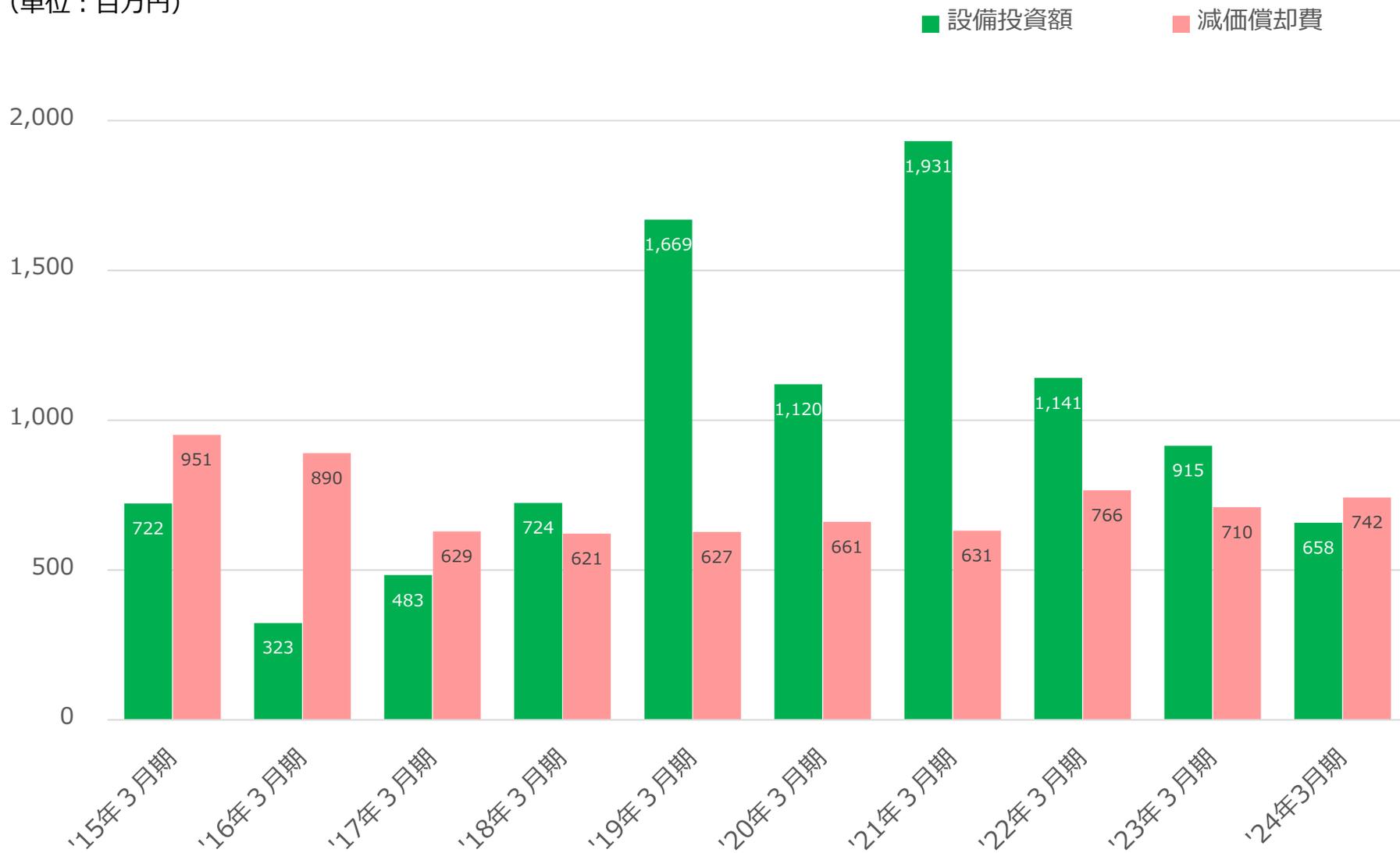


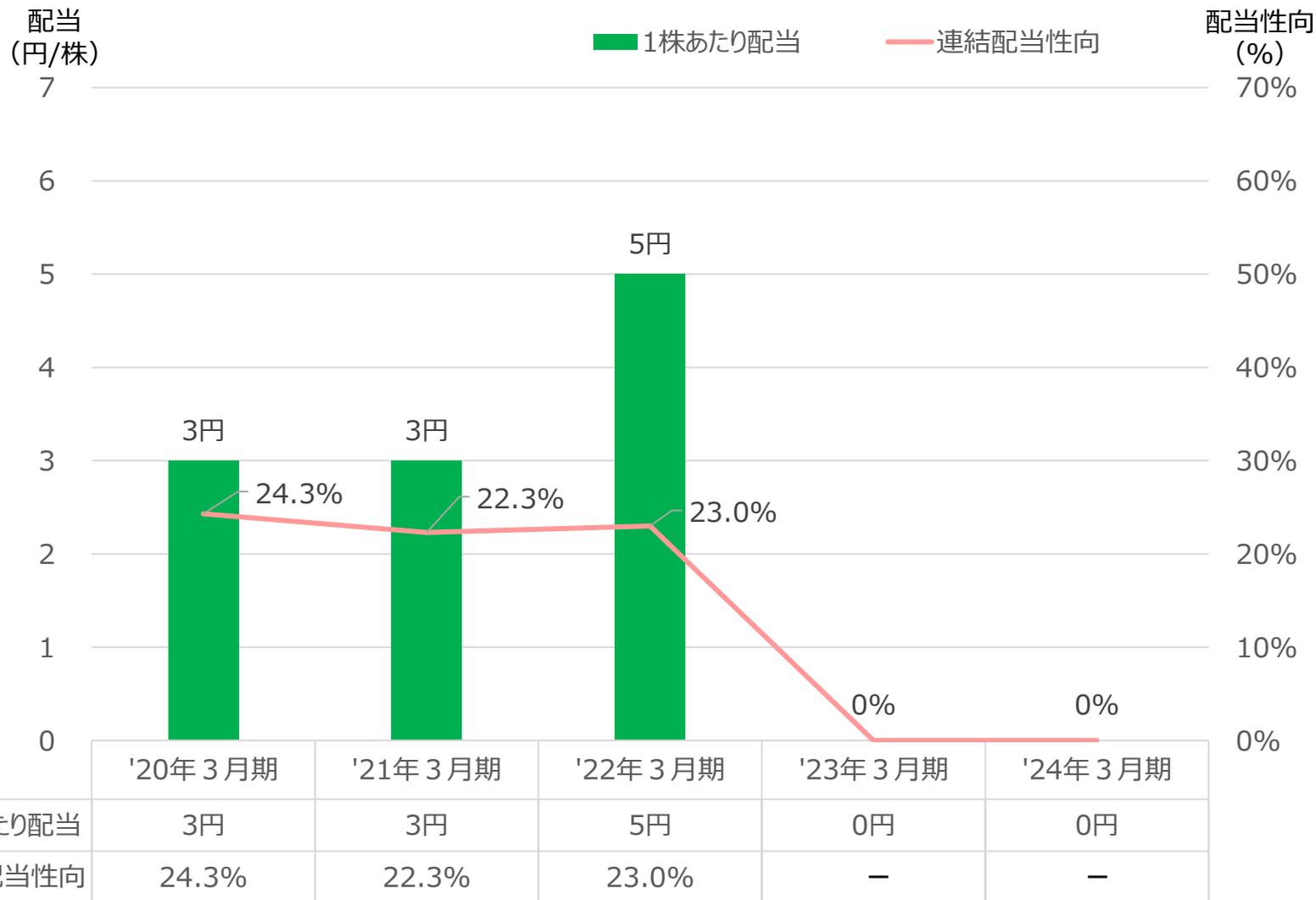
(単位：百万円)



# 設備投資と減価償却費の推移（連結）

(単位：百万円)





## <見通しに関する注意事項>

- 本資料に記載されている業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- したがって、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



# 新日本理化株式会社

---



Be the best **SPICE!**